

ブドウ生産者に合わせた経営向上策の導入支援

1 対象

豊明市・名古屋市緑区ブドウ生産者 26 名

2 背景

尾張地域では名古屋市近郊という立地を生かし、ブドウ生産者全戸が直売である。生産者はそれぞれの経営方針に合わせてブドウ栽培を行っており、求める果実品質や経営管理手法が異なるため、生産者のニーズに合った経営向上策が必要になる。そのような中、近年ブドウ栽培における喫緊の課題として、着色不良対策と摘粒の省力化が挙げられる。着色不良対策については、ブドウの着色向上に効果のあるアブシシン酸（以下、ABA）を活用した技術を令和4年度から検証している。摘粒の省力化について、「シャインマスカット」において花穂整形時に上部支梗を利用することで作業時間を短縮できると報告されているが、尾張地域では当技術を導入している生産者は少ない。また展葉5枚時のジベレリン散布による花穂伸長技術についても作業時間の短縮に効果があるが、尾張地域では検証されていない。そのため令和6年度は、ABAによる着色向上技術の導入支援を引き続き行うとともに、支梗利用と花穂伸長による摘粒作業の省力効果について調査を行った。

3 活動の内容

ABAについては管内生産者3戸を実証ほとして設置し調査区ごとの作業時間及び収穫期の果実品質について調査した。また資材メーカーが新たに開発したABA専用噴口について、既存のマイクロミストスプレーと合わせて技術導入にかかる資材費を調査した。摘粒の省力化については管内生産者1戸を実証ほとして設置し、生産者協力のもと調査区ごとの作業時間を調査した。

5月・7月の栽培講習会にて管内生産者と実証ほを巡回し、上記の技術に関する意見交換の場を設けた。結果については冬季のせん定講習会にて周知を行い、講習会後のアンケート調査にて技術の導入意向を確認するとともに、生産者が現在抱えている経営課題について聞き取りを行った。

4 活動の成果

ABAの実証ほ3戸では、どのほ場でも慣行区に比べ散布区では収穫期の着色が向上していることが確認された。また、ABA専用噴口により既存のマイクロミストスプレーに比べ散布時間を6分の1程度に短縮できることが明らかとなった。支梗利用及び花穂伸長の実証ほ1戸では、花穂伸長により栽培管理全体で慣行区に比べ23%、支梗利用により36%も作業時間を短縮でき、摘粒作業を省力化できると分かった。

ABAによる着色向上技術の検証は令和4年度から3年間行っており、計7戸の生産者で技術がされた。支梗利用については2戸の生産者で技術が導入されたものの、まだ技術を導入できていない生産者も多く、各々の栽培管理や経営管理手法にあった経営向上策の検討が今後必要となる。

表 調査区ごとの作業時間 (h/10a)

調査区名	摘粒	全体	対慣行比 (全体)
支梗利用区	34.9	73.4	64%
花穂伸長区	45.1	88.6	77.2%
慣行区	75	114.7	—

※全体は、花穂伸長、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒、袋かけの作業時間の合計



図 せん定講習会での実績報告